

令和4年度
事業計画書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

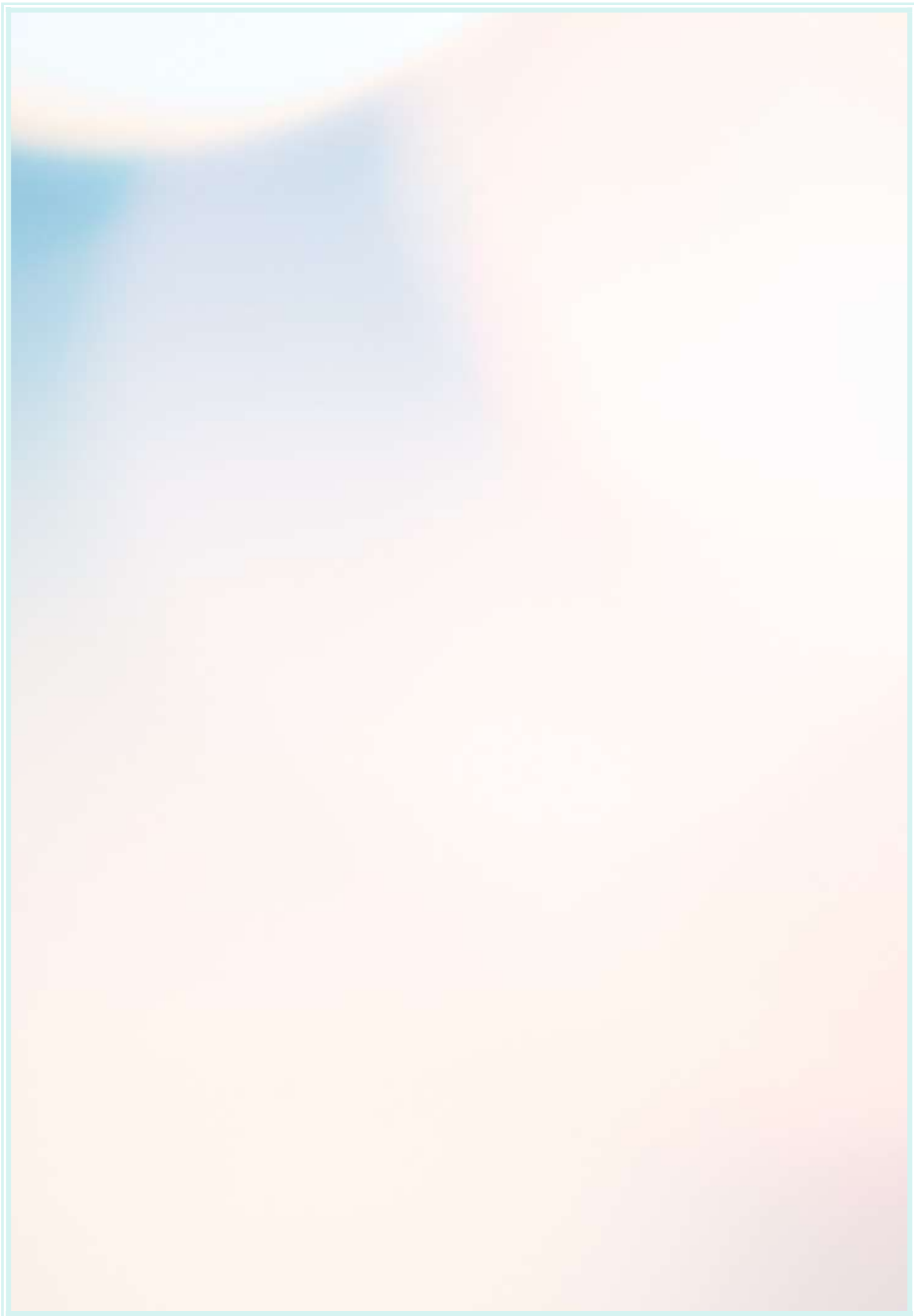


森のようちえん

(滝野自然学園)



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



目 次

I	経営理念	1
II	基本方針	1
III	事業計画策定の基本方針	1
	1 社会課題解決に対応した事業内容の継続展開	
	2 事業環境の変化への速やかな対応	
	3 未来ビジョンに基づく事業の展開	
	4 デジタル投資による業務変革の推進	
	5 他部門・他団体との業務連携等の推進	
IV	事業概要	3
	1 青少年の健全育成と社会参加に関する事業	
	2 社会教育の推進に関する事業	
	3 市民活動の振興に関する事業	
	4 その他法人の目的を達成するために必要な事業	
V	SYAA×SDGs	5
VI	部門別事業計画書	7
	1 児童会館・ミニ児童会館	〈 7～ 8〉
	2 千歳市児童館・学童クラブ・千歳市青少年会館	〈 9～12〉
	3 やまびこ座・こぐま座	〈13～14〉
	4 若者支援施設	〈15～16〉
	5 滝野自然学園	〈17～18〉
	6 北方自然教育園・定山溪自然の村・青少年山の家	〈19～24〉
	7 札幌エルプラザ公共4施設	〈25～26〉
	8 イベント事業	〈27～28〉
VII	基金事業	29
VIII	施設一覧	31
IX	機 構 図	32

令和4年度 事業計画

I 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与します。

II 基本方針

1. 青少年の健全育成と社会参加の実現に寄与する
2. 市民活動の振興及び社会教育の推進に寄与する
3. 将来を見据えた組織力の強化を図る
4. 自主事業の拡大を図り、自主財源の確保により安定した法人経営を行う
5. 組織の活性化・効率化に向けた改革を行う

III 事業計画策定の基本方針

1. 社会課題解決に対応した事業内容の継続展開
2. 事業環境の変化への速やかな対応
3. 未来ビジョンに基づく事業の展開
4. デジタル投資による業務変革の推進
5. 他部門・他団体との業務連携等の推進

Ⅲ 事業計画策定の基本方針 《内容》

(1) 社会課題解決に対応した事業内容の継続展開

当財団事業と密接に関連する社会課題に対しては、公益法人として、これらに積極的な役割を果たすことが求められており、財団が継続して事業活動を行うためにも、持続可能な開発目標（SDGs）等、様々な社会課題の解決に繋がる事業を提案・提供し、社会から必要とされる存在を目指すことが重要である。また、当財団事業の多くを占める札幌市の指定管理事業においては、令和4年度は現契約の最終年度を迎える年度となるが、新たな期間の具体的な事業計画の中にも各種事業の関わりの中でこれらの社会課題を意識した事業提案が必要となる。

各事業部門においては、既存事業の効果検証と様々な社会課題解決への取り組みを念頭に置いた事業計画を策定すること。

(2) 事業環境の変化への速やかな対応

新型コロナウイルス感染症の流行による影響によって、企業の取り巻く環境や一人ひとりの価値観が大きく変化し、利用者ニーズのさらなる多様化も進んでいるが、当財団の各種事業においても社会の変化に対応した事業実施方法の見直しやこれを推進する組織体制・事業実施体制の見直しが急務となっている。

各事業部門においても事業環境の変化を敏感に察知し、当財団「らしい」強みを継続して発揮するための積極的な変化を検討し、必要な取り組みを行うこと。

(3) 未来ビジョンに基づく事業の展開

財団が目指す未来社会の創造にあたっては、当財団の設立趣意や目的などを大切に守りつつ、各事業部門で設計した将来像である「未来ビジョン」に向かって、中期的な行動を継続していく必要がある。

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を担ってきた財団事業の実績を継承し、さらに発展させていく取り組みが重要となることから、当財団の定款に基づく事業展開を意識し、引き続き未来ビジョンの実現に向けた具体的な行動計画を盛り込んだ事業計画を策定すること。

(4) デジタル投資による業務変革の推進

事業部門や管理部門の各種業務を効率的に行うためには、デジタル技術の活用やデジタル環境の整備は避けて通ることのできない重要な項目となっており、中でも法人全体で共通利用するハードウェア及びソフトウェアの見直しは、財源の確保も含めて中期的な展望を持った取り組みを必要としている。各事業部門においても、法人全体や他部門との連携も意識し、既存のサービスや既存業務の省人化・効率化に繋がるデジタル活用の検討を行うなど、将来的な事業コストの低減と業務フローを再度見直すため、現行の課題を抽出し有効性の高いデジタル活用を積極的に検討すること。

(5) 他部門・他団体との業務連携等の推進

財団の目的を達成するため現行事業の更なる充実を図るにあたっては、他部門や関係機関等との幅広い情報交換を行うとともに、必要に応じて他企業・他団体との業務連携を推進し、事業効果をより高める取り組みも必要となってくる。

当財団の各種事業の社会的価値の向上に向け現行の実施方法等に過度に拘らず、他部門との連携による相乗効果の創出や他団体の持つ技術・ノウハウの友好的な共有・活用を含めて、他団体との協同などの取り組みを念頭に置いた事業計画を策定すること。

IV 事業概要

- 【定款第4条】 （１）青少年の健全育成と社会参加に関する事業
（２）社会教育の推進に関する事業

公１ 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

（１）青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業 ・学習活動事業 ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業 ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

（２）体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業 ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

（３）施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等 ・こども劇場の管理業務、貸室等
- ・千歳市青少年会館の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

（１）体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業 ・ボランティア参加事業 等

（２）受託事業

- ・地域若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

（３）調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

（４）施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

（１）滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・情報発信事業
- ・団体支援事業 ・施設管理運営事業

（２）北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

（３）定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

（４）青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

【定款第4条】 （3）市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|-----------|------------------|-------------|
| （1）活動支援事業 | ・ 男女共同参画啓発事業 | ・ 市民活動関連事業 |
| | ・ NPO活動支援事業 | ・ 相談 ・ 支援事業 |
| （2）職員派遣事業 | ・ 大学、高等学校他への職員派遣 | |
| （3）情報発信事業 | ・ 各種情報誌の発行事業 | |

【定款第4条】 （4）その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・ 民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・ 物品貸与等事業

他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、
公益目的外での施設貸与事業

- ・ 札幌エルプラザ公共4施設、
定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・ こども劇場、若者支援施設における
公益目的外での施設貸与事業

地域社会の発展に貢献し 人々の幸せと豊かな生活を 実現するために。



SDGsとは

2015年、国連は持続可能な世界を実現するため、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を定め、17の目標を設定しました。

政府・企業・自治体・そして私たち一人ひとりが、未来の世界をより良くするために協力しあい「誰も置き去りにしない」世界を目指すための行動目標です。



活動協会 × SDGs

私たちはこれまで、子どもから大人まで、さまざまな方を対象に、学習機会や自然体験に関わる機会の提供、生活困窮世帯への支援、ジェンダー平等や自然環境の保全に向けた啓発活動など、幅広い活動を行ってきました。これらの事業活動を通して目指すものは、国連が定める「SDGs」が目指すものと同じ「より良い社会の実現」です。そのため、私たちが事業の発展に向けて邁進することそのものが、SDGsの達成に直接つながると考えています。

今後も、SDGsの達成に向けて取り組むすべての人とともに未来がより良くあるためにできることを考え、責任をもって行動していきます。



経営理念 × SDGs

SYAA の定款に掲げる目的と密接に関連している目標は「目標 4. 質の高い教育をみんなに」と「目標 11. 住み続けられるまちづくりを」で、これらは各施設が行う事業において共通して取り組んでいるものです。また、全ての事業活動に必要な共通の考え方として「目標 17. パートナーシップで目標を達成しよう」を位置づけています。



4つの事業 × SDGs

【1. 青少年の健全育成と社会参加に関する事業】



- ・児童会館・ミニ児童会館
- ・千歳市児童館・学童クラブ
- ・千歳市青少年会館
- ・やまびこ座・こぐま座
- ・若者支援施設
- ・滝野自然学園 (p7～18)



【2. 社会教育の推進に関する事業】

- ・北方自然教育園
- ・定山溪自然の村
- ・青少年山の家
(p19～24)



【3. 市民活動の振興に関する事業】

- ・札幌エルプラザ公共 4 施設
(p25～26)

【4. その他法人の目的を達成するために必要な事業】

- ・イベント事業 (p27～28)



VI 部門別事業計画書

こども事業課・こども育成課

札幌市児童会館・ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

事業方針

すべての子どもの笑顔があふれる活動拠点を地域とともにつくります

多種多様な状況や価値観を認め合い、子どもたちが自分らしく過ごせる居場所づくりを進める。また、あそびや体験等の主体的活動を推進するとともに、地域・関連機関・保護者等と連携し、子どもたちの心身の育ちの場を広げる。

児童会館一体管理のスケールメリットを活かした効率的な運営の推進と併せて、経費削減に努め、計画的な予算執行に取り組む。

重点目標

地域活動等事業

□生活困窮世帯の中学生の居場所の確立

札幌まなびのサポート事業「まなべえ」とおして、学習習慣の習得、基礎的な学力の向上と中高校生の居場所としての児童会館の在り方を確立していく。

□子どものくらしを支える相談支援体制の充実（※こども事業課のみ）

子どものくらし支援コーディネート事業とおして、困難を抱えている子どもや世帯を早期に発見し必要な支援につなげる。

施設運営等事業

□各企業・団体とのネットワークを拡大し、日常的な運用を推進する。

□事業収支の適正化を図る。

□あそびや体験活動を通じた子どもの日常生活支援と発達支援を行う。

□子どもと子育て家庭が抱える課題に対する予防と早期発見・対応力の強化に努める。

□子どもをまんなかに据えた、子ども視点の児童会館運営を行う。

□デジタル社会における児童会館に求められるニーズの把握と活用を検討する。

□子ども行政の動向把握と次期指定管理業務へ向けた取り組みを行う。

□未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す。

（こども事業課）

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①事業プログラム参加者総数

令和4年度	3,000人	令和3年度	3,267人
-------	--------	-------	--------

②利用者アンケートにおける満足度(5段階)

令和4年度	4.5	令和3年度	4.8
-------	-----	-------	-----

【部門目標】各種企業・団体等新規関連ネットワーク団体数

令和4年度	15団体	令和3年度	15団体
-------	------	-------	------

（こども育成課）

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	3,000,000人	令和3年度	2,720,000人
-------	------------	-------	------------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	550,000人	令和3年度	511,000人
-------	----------	-------	----------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	80%	令和3年度	87%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①地域連携事業の実施

令和4年度	200回	令和3年度	190回
-------	------	-------	------

②クラブ・サークル成果発表の機会

令和4年度	400回	令和3年度	380回
-------	------	-------	------

③子どもたちによる読み聞かせの実施

令和4年度	6,000回	令和3年度	6,000回
-------	--------	-------	--------

④子ども運営委員会の企画する事業実施

令和4年度	400回	令和3年度	450回
-------	------	-------	------

⑤自然体験活動の実施

令和4年度	1,000回	令和3年度	1,500回
-------	--------	-------	--------

こども事業課

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「まなべえ」） ・子どものくらし支援コーディネート事業 	通年 40 会場／48 回程度 通年 10 区 87 エリア
2 体験機会創出事業 <ul style="list-style-type: none"> ・体験機会フォロー事業 ・興味・関心創出事業 ・社会参加・貢献啓発事業 ・調査・研究事業 	通年・5 件/通年・3 件 通年・5 事業 通年
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童会館運営に関する事業 	通年

こども育成課

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ事業 ・学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「まなべえ」） ・中・高校生夜間利用等運営事業「ふり→たいむ」 ・子育てサロン事業 ・児童会館実習指導業務 ・他課連携事業 ・子ども運営委員会 	※実施時期・回数については各会館により異なるため省略
2 体験機会創出事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW・子どもの権利推進事業 NEW・調査研究事業 ・講習会・発表会（各種講座・クラブ活動発表会等） ・鑑賞会（人形劇、読み聞かせ、映画、ビデオ上映等） ・社会奉仕活動（ゴミ拾い、施設訪問、防犯・防火活動等） ・交流事業（世代間・地域交流等） ・リーダー育成事業 ・季節行事・パーティー（歳時事業、お祭り等） ・野外・自然体験活動（キャンプ事業、畑づくり、遠足、登山等） ・伝統芸能活動（伝承あそび、茶道・将棋・華道教室等） ・体力増進・スポーツ（日常あそび、外遊び、一輪車等） ・学習活動 ・創作活動 ・読書活動 ・環境活動 ・合同事業 ・他都市連携・外部連携事業 ・NPOとの連携事業 ・周年事業 NEW・広報活動 NEW・近隣市町村連携強化事業 	
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・貸室事業、危機管理事業等 	

札幌市児童会館・ミニ児童会館

×

SDGs

1 貧困をなくそう



4 質の高い教育をみんなに



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナリーシップで目標を達成しよう



事業方針

重点目標

数値目標

具体的な変化および成果を明確に示し、財団による運営の強みを広報する

令和3年度より運営を開始した児童館・学童クラブの活動の実績や新規に運営を開始する千歳市青少年会館での取り組みをととした千歳市の青少年活動の変化を明確化し、地域住民、行政、関連事業者との「良好な関係づくり」を進め、真の意味での広報活動を行う。

また、さっぽろ圏 11 市町村においては札幌・千歳の連携をロールモデルとしてアピールを行い、関係の拡充、新規事業の展開を進める。

施設運営においては運営方針である「地域に見守られる中で成長する子どもの拠点づくり」を達成するために「子ども・若者を中心に据えた語り合いの場」をつくることを進める。

地域活動等事業

施設運営等事業

□千歳市および周辺市町村の教育機関、企業等関係組織への広報活動

財団各部門の専門性や事業および初年度に千歳事業所が実施した財団内外との連携を、千歳および周辺市町村の関係組織に広報し継続的な関係づくりを行うことに努め、他セクションを含めた財団全体の活動範囲の拡大へ貢献することを目指す。

□子ども・若者に寄り添う姿勢の継続と若者支援の第一歩

利用者や市民の方々と直接関わるのできる施設を運営していることが最大の強みであることを再認識し、オンライン等を活用しながらコロナ禍においても子ども・若者への寄り添いや支援を継続させることに重点を置くことにより、切れ目のない支援の第一歩を踏み出す。併せて、保護者や支援者についての寄り添いを強化することにより多面的な支援を目指す。

□地域と交わる施設運営

令和3年度に引き続き各施設館長を中心に職員をセールスマンとした情報発信や地域や関係組織との対話を重ねる。併せて、千歳市青少年会館の運営が加わることや社会情勢の変化に対応し、デジタル技術を取り入れた時間や距離・場所に囚われない交流や場の提供の有効性についても模索、検証していく。また、令和3年度につなげた大学等高等教育機関との連携により、児童館活動を拡充させる事業展開を行う。

□千歳事業所機能の深化と広報機能の強化

千歳事業所に係る経理・庶務業務についてより確実に履行するとともに、一般職員（館長職）までの職員については労務の理解を深め、千歳事業所全体の事務レベルを高める。財団本部と業務分担しながら「小さな組織」としての独自性の確立やチャレンジを行う風土づくりを進める。

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	200,000 人	令和3年度	159,500 人
-------	-----------	-------	-----------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	7,000 人	令和3年度	4,470 人
-------	---------	-------	---------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	90%	令和3年度	85%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①連携事業に向けた千歳市周辺企業等への訪問

令和4年度	10 団体	令和3年度	10 団体
-------	-------	-------	-------

②児童館運営協議会の設置

令和4年度	8 館	令和3年度	2 館
-------	-----	-------	-----

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童館事業 ・学童クラブ事業 ・地域子育て支援拠点事業 ・中高生タイム事業 ・こども運営委員会 	通年
2 体験機会創出事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW・大学等高等教育機関との連携 NEW・近隣市町村連携強化事業 ・他都市連携事業 ・企業連携事業 ・他課連携事業 NEW・千歳事業所内連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ及び文化交流事業 ②若者団体との協働による児童対象プログラムの開発と実践 ・子育て相談（個別相談対応、茶話会等） ・交流事業（長期休みランチデー事業、地域行事への参加等） ・遠足学習事業 ・講習会（遊び・食育等をテーマとした講習会） ・季節行事（ハロウィンパーティ、クリスマス会等） ・野外・自然体験活動（野外活動体験、自然素材を活用した工作等） ・鑑賞会（読み語り、映画鑑賞等） ・学習活動（学習タイム、社会見学等） ・体力増進・スポーツ（ミニ運動会、ボール遊びや縄跳び等） ・広報活動 ・調査・研究事業 	通年 6 回程度 通年 2 回程度 通年 1 回／3 回程度 通年 10 回程度 9 月、2 月 2 回 通年 5 回程度 ※実施時期・回数については各館により異なるため省略
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童館・学童クラブ運営に関する事業 ・危機管理事業 	通年

千歳市児童館・学童クラブ

×
SDGs



事業方針

適切な施設管理と財団独自の青少年支援を通じた財団認知度の向上

児童館・学童クラブ運営と連携して千歳市における当財団認知度の向上に取り組むとともに、子ども若者分野に関する事業の重要性と当財団ならではの事業展開を念頭に取り組む。

令和4年度は、指定管理業務の初年度となるため、施設管理者変更に伴う市民サービスへの影響を最小限に留めることや、公平かつ安心安全な利用環境の確保について重点的に取り組むことで、施設利用者や地域住民をはじめ、行政機関や地場企業等から信頼を獲得することを目指す。その上で、児童館・学童クラブとの事業連携や当財団が保有する事業ノウハウを活用した相談窓口の設置など、独自の取り組みを実践することで新たな利用者の獲得につなげるほか、事業展開の可能性を模索し次年度以降の運営について検討する。

重点目標

地域活動等事業

□積極的な広報活動の実施

千歳市教育委員会をはじめとする行政機関の関係各所や千歳市内小中学校、高校等への広報活動を実施し、それらを通じて関係構築を図るとともに地域における社会課題の把握に努める。

施設運営等事業

□適切な業務履行と施設認知度の向上

指定管理初年度であるため、確実な業務移行に取り組むことで事業者変更に伴う利用者への影響を最小限に留めるとともに、児童館・学童クラブとの連携事業等の実施を通じ、新規利用者の獲得に努めるなど、千歳市民に対して施設の認知度向上に取り組む。

□利用者ニーズの把握とそれらを捉えた施設運営の実施

利用者との日常的なコミュニケーション機会の確保や施設自体および活動内容等に関する利用者アンケート等の実施を通じて施設に対する利用者ニーズを把握し、調査結果を踏まえた施設環境の向上、整備を行う。加えて、児童館を利用する中高校生に対して施設認知度や施設ニーズに関する調査等を実施することで、アンケート対象者の拡充を図るとともに自発的な活動を支援する新たな活動場所を提供する。

□青少年の健全育成の推進

当該施設を利用したことのない千歳市民や青少年団体の利用促進を図ることで、青少年の健全育成や地域青少年活動の振興に取り組む拠点としての機能を果たすほか、様々な課題を抱える若者やその保護者に対する相談窓口を設置することで、当財団のノウハウを活用し千歳市における青少年の個人支援にも取り組む。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は集計中のため、令和2年度の実績数を記載**①利用者総数**

令和4年度	11,500人	令和3年度	集計中	令和2年度	6,609人
-------	---------	-------	-----	-------	--------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	50件	令和3年度	未実施	令和2年度	未実施
-------	-----	-------	-----	-------	-----

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	90%	令和3年度	集計中	令和2年度	90%
-------	-----	-------	-----	-------	-----

【部門目標】**①若者支援における協力関係の構築を目的とした関係機関等への訪問**

令和4年度	10件
-------	-----

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 <small>NEW</small> <ul style="list-style-type: none"> ・調査・研究事業 ・利用促進事業 ・千歳事業所内連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ及び文化交流事業 ②若者団体との協働による児童対象プログラムの開発と実践 ・支援・相談事業 	通年 通年 9月、2月 2回 通年 5回程度 通年/50回
2 施設管理運営事業 <small>NEW</small> <ul style="list-style-type: none"> ・貸室事業 	通年

千歳市青少年会館
×
SDGs

1 貧困をなくそう

4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナシップで目標を達成しよう



こども劇場課

札幌市こどもの劇場やまびこ座 札幌市こども人形劇場こぐま座



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり

こども劇場課では、「文化芸術が栄えること＝すべての子どもたちのこころの豊かさが生まれ、将来へ受け継がれていくこと」と捉え、文化芸術の力を実感する事業を展開し、札幌の文化をリードする役割を担う。良質な舞台芸術の創造発信、継続的な文化体験機会の創出を図り、将来における文化事業の重要性を今一度社会に伝え、芸術を守り育てていく持続可能な劇場づくりを目指す。また、ソーシャルインクルージョンの機能を持ち、障がいの有無にかかわらず、誰もが文化体験の機会を享受できる劇場運営を行うとともに、関わる人材の育成、市民の持つ人的資源の発掘、子どもの文化に関する相談支援、講師派遣に取り組むなど、公立専門劇場として様々な文化団体、劇団、市民をつなぐネットワークの拠点を目指す。

重点目標

地域活動等事業

□夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり

劇場が地域に開かれた親しみある場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合うために、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを支援する。

施設運営等事業

文化芸術を継承する人材の育成を劇場運営の根幹に据え、子どものための人形劇や児童劇、伝統芸能等の担い手である市民団体を育成することで、様々な人が交わる地域コミュニティの発展を支える場を形成する。

□子どもたちへ芸術の鑑賞及び体験機会の拡充

コロナ禍において、感染予防対策に努め、文化芸術に触れる機会の拡充を図る。

□豊かな子ども文化の街・さっぽろをデザインする

あらゆる劇場空間を演出する取り組みを積極的に展開する。

□文化芸術の持つ社会的包摂機能の推進

全ての人が文化体験の機会を享受し、創造者として参加できる相互共生社会を目指す。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	70,000人	令和3年度	42,299人
-------	---------	-------	---------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	24,000人	令和3年度	16,078人
-------	---------	-------	---------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	85%	令和3年度	99%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①新規人形劇団の誕生及び育成

令和4年度	3劇団	令和3年度	4劇団
-------	-----	-------	-----

②年間上演日数及び公演数

令和4年度	上演240日・公演400回	令和3年度	上演193日・公演288回
-------	---------------	-------	---------------

③中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室『MA・SO・BO』年間利用者人数

令和4年度	10,000人	令和3年度	7,207人
-------	---------	-------	--------

事業内容	時期・回数
1 青少年活動支援事業 (1) 人材育成事業 (一般対象) <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者の人形劇講座、経験者の人形劇クリニック ・ 人形浄瑠璃講習会 ・ 義太夫講習会 (一般クラス) ・ 人形浄瑠璃体験ワークショップ ・ 指導育成事業 砂川人形劇創作体験プログラム ・ 舞台スタッフ指導事業 ・ 劇団育成支援事業 ・ 中島児童会館一体連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ① こどものまなび塾 ② こどもの文化セミナー 他 (2) 人材育成事業 (子ども対象) <ul style="list-style-type: none"> ・ ざ・にんぎょうじょうりゅースクール ・ こぐま座子ども人形劇団 ・ パペットユーススクール ・ こども舞台体験プログラム「ふれアート」 NEW・ やまびこ座・こぐま座野外人形劇シリーズ <ul style="list-style-type: none"> ① こぐま座サイトスペシフィック・パフォーマンス ② 冬の野外人形劇 他 ・ 児童劇団育成事業 児童演劇講習会 他 	4～7月 13回／8～3月 20回程度 6～12月 17回／5～12月 20回 6～10月 3回程度 5～3月 20回 通年／通年 6、9、12月 3期 6～12月 3回 7～12月 17回 5～3月 40回／6～1月 30回程度 6～1月 3プログラム (計6日) ① 6月 2回 (2日間) ② 2月 2回 (2日間) 6～1月 12回
2 体験機会創出事業 (1) 地域連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ やまびこ座夏まつり ・ 札幌劇場祭 TGR 2022 ・ 中島児童会館協働事業「かもくま祭」 ・ アウトリーチ活動 ・ 読み語りの会 (2) 公演事業 <ul style="list-style-type: none"> NEW・ 障がい児と創る人形劇 パペットシアタープロジェクト ・ 札幌国際人形劇フェスティバル ・ 伝統芸能『座・競演シリーズ』 ・ やまびこ座プロデュース公演 ・ 第51回札幌人形劇祭 他 (3) その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人形劇スタンプラリー ・ 物品販売事業 ・ 事業サポーター制度 ・ 市民ボランティア「やまびこ座たのしませ隊」 ・ こども若者事業部連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ① 人形劇クラブの指導および育成 ② 被災地支援活動 他 ・ こどもの劇場通信 ・ やまびこ座こぐま座 LINE 通信 他 	8月 1回 (2日間)／11～12月 1回 7月 1回 (2日間) 6～11月 16回程度／通年 40回 11～2月 5回程度 7～3月 20回程度 10～3月 公演 4回 5月 3回／11月 1回 (3日間) 通年／通年 (公演時)／通年 通年 ① 5～11月 随時 ② 9～3月 随時 年 6回発行／通年
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ こども劇場の管理運営業務、貸室事業、入場料の徴収 	通年

こどもの劇場やまびこ座
こども人形劇場こぐま座
× SDGs





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

居場所のサイコウと新たなステージへの飛躍

失われた居場所と機会を取り戻し、更なる飛躍につなげるために中期的に取り組む。

市内に広げた居場所に集まる若者の声を、社会に届けることをとおして、「子ども・若者の権利」に係る若者の主権者意識を育む。

令和4年度は、アウトリーチ推進事業を継続するとともに、居場所で出会った「子ども・若者当事者」の声を基にアドボカシーを推進することが、私たちがやるべき社会参加支援であると認識し尽力していく。また、オンライン事業や広報活動の実績を踏まえ、若者が参加しやすい環境を整え、とりわけ交流の機会を失った大学生を対象に事業を展開する。併せて、全国の若者支援団体との実践交流や財団内の発信と連携に取り組み、数値では表すことのできないYouth+の「社会的役割」や「質的評価」の研究と発信を継続していく。

これらのことを踏まえ、これまで築いた経験を活かしリーダーシップを発揮し、市民の方との協働を進めるための取り組みをけん引し、広くきめ細かな「誰一人取り残さない若者支援」のネットワークの構築を目指す。

重点目標

等事業
地域活動

- 地域若者サポートステーション事業常設サテライトの運営を行い、職業的自立に向けたキャリアコンサルティングや就職支援プログラムを実施する。
- 白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営事業を行い、賑わいを創出する。

施設運営等事業

- 若者の居場所機能の拡充およびユースワークの理念の共有について、独自に設定した居場所づくりの評価指標を基に段階的に構築する。
- 居場所で出会った「子ども・若者当事者」のアドボカシーを推進する。
- さっぽろの若者支援のトップリーダーとして事業を推進し、「発信力」と「影響力」を高める。
- デジタルリソース・データを最大限に活用した効率的・効果的な運営を行う。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	230,000人	令和3年度	112,580人
-------	----------	-------	----------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	40,000人	令和3年度	31,833人
-------	---------	-------	---------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	98%	令和3年度	98%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①利用者証の発行を受けた若者数

令和4年度	11,000人	令和3年度	7,897人
-------	---------	-------	--------

②若者等登録者の延べ利用者数

令和4年度	180,000人	令和3年度	91,099人
-------	----------	-------	---------

③新規に相談を受けた自立支援登録者数

令和4年度	400人	令和3年度	310人
-------	------	-------	------

④進路決定および適切な支援機関につながった困難を有する若者数

令和4年度	345人	令和3年度	200人
-------	------	-------	------

⑤交流促進プログラムに参加した若者の述べ人数

令和4年度	6,500人	令和3年度	4,112人
-------	--------	-------	--------

⑥社会活動および育成プログラムに参加した若者の延べ人数

令和4年度	3,000人	令和3年度	2,556人
-------	--------	-------	--------



事業方針

財団内外から必要とされる課へ

これまで多くの事業を実施し培ってきた様々な知識や技術・人脈など多くの財産と、他部門では難しい取り組みを財団内外に還元し、地域社会はもとより他部門にも必要とされる企画事業課を目指すとともに、他課の取り組みを地域社会に広げられるよう、財団内の積極的な情報交換や業務連携を深め、地域社会の発展と財団の知名度向上を図る。また、コロナ禍で変容した現在の社会状況を踏まえ、当財団が大切にしてきた「体験活動」のほか、非接触型プログラムも積極的に取り入れ、新様式に対応した事業展開を目指す。

重点目標

地域活動等事業

- 収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。
- 魅力ある施設周辺フィールドを生かした自然体験プログラムの提案等、PR 活動を進め、財団内外の新規、リピート団体の利用促進を図る。
- 関連 NPO 団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営、事業展開を目指す。
- 施設の歴史や野外事業の効果を振り返り、組織に有益な知識や事例の積み上げを行う。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	2,650 人	令和3年度	2,400 人
-------	---------	-------	---------

②事業プログラム参加者総数（主催事業）

令和4年度	500 人	令和3年度	885 人
-------	-------	-------	-------

③参加者アンケートにおける満足度

令和4年度	95%	令和3年度	98%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①財団内利用件数

令和4年度	25 件	令和3年度	16 件
-------	------	-------	------



事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 自然体験活動事業 【幼児対象事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・たきの森のようちえん 他 【小学生対象事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・たきの森のがっこう ・川のがっこう ・チャレンジキャンプ ・課題を抱える青少年を支援する体験活動プログラム 他 【親子等対象事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーキャンプ 他 【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動ボランティア登録事業 ・滝野自然学園利用促進事業 他 	6～3月 10回程度 6～2月 7回程度 6～9月 3回 7～3月 1回程度 未定 4～3月 2回程度 通年 20回程度 通年
2 職員派遣事業 <ul style="list-style-type: none"> ・その他の指導業務 他 	5～3月
3 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・滝野自然学園の管理運営、貸室事業等 	通年

滝野自然学園
 ×
 SDGs

4 質の高い教育を
 みんなに

11 住み続けられる
 まちづくり

15 陸の豊かさも
 守ろう

17 パートナリシップで
 目標を達成しよう



事業方針

農業体験を中心とした体験活動の安定的な提供

北方自然教育園は、「学校教育における自然体験活動機会の提供」を第一義とし、札幌市の野外教育施設としての役割を担う。特に、農業体験を中心とした体験活動を安定的に提供し、持続可能な社会への理解を深める。

また、学校教育のサポート施設として学校補助教材を開発し、積極的に SNS・HP 等で配信することで自然体験活動の新たな形として学びの機会の提供に取り組むとともに、教材用生物の安定的な確保に努める。

重点目標

地域活動等事業

- 市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。
- 地域住民との関係性を深めるための地域活動へ参加する。

施設運営等事業

- 小中学校の体験学習への安定的な機会提供と学習機会の強化を行う。
- 生物教材配付の生物飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給を行う。
- SNS、HP、オンライン会議等を活用し、小中学校に対する事前・事後学習の支援を行う。
- 野外施設部内の連携強化および他セクションの強みを生かした事業連携の強化を図る。
- 特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携を進める。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	7,500 人	令和3年度	3,200 人
-------	---------	-------	---------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	650 人	令和3年度	380 人
-------	-------	-------	-------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	87%	令和3年度	86%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①小中学校を対象とした体験農場実施校数（延べ数）

令和4年度	40 校(2,000 人)	令和3年度	22 校(737 人)
-------	---------------	-------	-------------

②学習館入館の料金収入維持

令和4年度	100,000 円	令和3年度	74,000 円
-------	-----------	-------	----------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 地域活動等事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童会館誘致事業 ・自然環境関連セミナー (2) 施設運営等事業 <ul style="list-style-type: none"> ①体験農場の機会提供に関する事業 ②生物教材提供に関する事業 ③自然体験学習の提供に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・北方フルーツファーム ・北方ファーム ・自然素材のクリスマスリース作り ・新年しめ飾りづくり ・家族でわくわく貝化石観察会 ④情報の収集および提供に関する事業 ⑤市民の自主的な活動及び交流の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア事業 ・教育機関支援事業 ⑥自然体験や展示に関する相談業務 ⑦その他設置目的を達成するために必要な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題解決事業 ・団体指導事業 ・他施設・団体連携事業 ・教職員研修事業 ・ロビー展示 ・大人の学び舎「山野草講座」 ・フルーツ・スイーツ倶楽部 ・北方スノーシュー野鳥観察&自然観察 ・広報業務 ・調査・研究 	10月 4館 時期未定 1回 5～11月 随時 6月 1回 6、10月 4回 5、7、8月 6回 11月 1回 12月 4回／7月 1回 通年 通年／通年 随時 通年 随時 通年 通年 通年 7月 1回 通年 随時 5月 1回 11月 1回 1～3月 随時 通年 随時 通年
2 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・北方自然教育園の管理運営 	通年



札幌市北方自然教育園

×
SDGs





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

野外教育施設としての可能性を最大限に高めるために

定山溪自然の村は、人と森の繋がり、定山溪の豊かな自然環境や風土、地域の歴史や文化、四季折々の季節を感じ、子どもから大人まで誰もが身近に自然体験活動ができ、健康の増進が図られる野外教育施設として施設運営を進めてきた。

令和4年度は、自然体験活動やレクリエーションの多様化に対応できる環境や施設を備え、さらに自然体験活動に関わるグループワークを推進する力を向上させ、これまで積み重ねてきた事業経験や周辺フィールドを生かした自然体験活動を展開し、新たな施設の価値、可能性を見出していく。また、ライフスタイルの多様化に対応した利用形態の整備やアフターコロナを見据えた事業を地域と連携して取り組む。

重点目標

地域活動等事業

□札幌市内の児童に対する自然体験活動プログラムの提供を行う。

施設運営等事業

- 自然体験活動に対して特別な支援を必要とする児童、団体等を対象としたスペシャルニーズキャンプを実践する。
- 利用促進を目的とした事業プログラムの開発と提供を行う。
- SNSやHPを活用した利用促進事業を実施する。
- 他団体や企業との連携を強化し、利用促進に繋がる教育的効果の高い事業を多様な手法を用いて実施する。
- 野外施設部内の連携強化および他セクションの強みを生かした事業連携の強化を図る。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	16,700人	令和3年度	12,890人
-------	---------	-------	---------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	4,500人	令和3年度	2,200人
-------	--------	-------	--------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	98%	令和3年度	99%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①冬季野外活動の提案（下期利用率）

令和4年度	35%	令和3年度	36%
-------	-----	-------	-----

②セルフモニタリング調査（実施件数）

令和4年度	400件	令和3年度	400件
-------	------	-------	------

③実践型森林環境教育の推進（参加人数）

令和4年度	1,200人	令和3年度	700人
-------	--------	-------	------

④貸室業務

令和4年度	16,750千円	令和3年度	12,468千円
-------	----------	-------	----------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 地域活動等事業 ・ようこそ児童会館 (2) 施設運営等事業 ①利用者支援事業 ・教育機関宿泊活動支援事業 ・団体指導事業 ・提案型団体誘致事業 ・気づきのメッセージ ・森の観察会 ・飯ごう・羽釜ご飯体験会 ・キャンプファイヤー ・森の工作会 ・ナイトハイク ・石窯料理体験 ・銀河の会 ・わくわくラリー ②地域の文化を伝え振興を図る事業 ・フルーツ・スイーツ倶楽部 ③学びの場を提供する事業 ・スペシャルニーズキャンプ ・森の探検隊 ・昆虫博士キャンプ ・昆虫博士キャンプ中学生 ・社会的課題解決事業 ④新たなライフスタイルの提案を行う事業 NEW ・Nature Village ニューキャンプスタイル事業 ⑤野外教育・環境教育に携わる人材を育成する事業 ・インターンシップ ・ボランティアスタッフ育成 ⑥野外での子育て支援を行う事業 ・親子で冬キャン!! ・親子で『コソ練』キャンプ ・ようこそファミリーキャンプ ・森のようちえん ⑦その他、施設運営目的を達成するために必要な事業 ・定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル ・定山溪スノーシューツアー ・他施設・団体連携事業 ・ウィズコロナ対策関連事業 ・広報、プレスリリース ・調査、研究 2 施設管理運営事業 ・定山溪自然の村管理業務、貸室事業、物品貸出等	通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 通年 随時 学校長期休業期間、日曜日 通年 随時 5～12月 通年 随時 冬季 通年 随時／6～10月3回程度 通年 随時 11月 1回 通年 3団体 5～2月 4回 6～12月 7回 7～10月 2回 通年 通年 随時 通年 1～2月 1回／6、12月 2回 6月 2回／秋季、冬季 2回 2月 1回 1～3月 4回 通年 随時 通年 随時 通年 通年 通年



札幌市定山溪自然の村

×
SDGs





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

「あたたかさ」と「ワクワク育て」の輪を拡げる施設・事業の創造

令和4年度は、コロナ禍における感染対策の徹底により安心・安全に活動できる安定性の確保を前提としながら、参加者主体の対話的な活動を推進する。また、戦略的にプログラムを開発することにより、参加者自身が「ワクワク」しながら活動できる場をさらに押し拡げる。同時にその効果を検証して価値づけ、共有できる相手を増やすことにより、互いの探求を許容しあう「あたたかさ」の輪を拡げる。

前例にとらわれず、「今」「誰に」「何を」提供すべきかに真摯に向き合うことを核に体験活動を進化させ続け、併せて発信する力を獲得することにより、札幌発の新たな野外活動施設の在り方を広く打ち出していく。

重点目標

地域活動等事業

□さらなる戦力向上へ向け、教育を柱に戦略的にプログラム開発を続け、同時に効果検証方法の見直しと表現力の獲得を目指す。

施設運営等事業

- 新スタンダード形成の継続推進
プログラム転換と施設整備を進め、利用価値を再構成するとともに、情勢に合わせて利用促進を図る。
- 他部門、他団体、地域との関係性の成長
長期的視点のもと他部門、他団体、利用者との協働機会を探り、共に変化を乗り越え未来を作るために関係性を強化する。
- 業務効率化の推進
利用サービスの質の向上へ向けて、再委託内容の見直しやデジタル投資により利用受付の簡便化とセキュリティ強化、効率化を推進する。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	48,000人	令和3年度	40,200人
-------	---------	-------	---------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	7,200人	令和3年度	9,100人
-------	--------	-------	--------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	97%	令和3年度	97%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①利用のしやすさに対する満足度

令和4年度	93%	令和3年度	93%
-------	-----	-------	-----

②実利用人数

令和4年度	28,000人	令和3年度	25,800人
-------	---------	-------	---------

③閑散期の一般利用団体数

令和4年度	20団体	令和3年度	19団体
-------	------	-------	------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 (1) 青少年キャンプ事業 ・ 野外教育プログラム普及・開発事業 ・ 青少年の抱える課題解決に向けた事業 ・ 冬の自然体験フェス (2) 生涯学習事業 ・ パッケージドプログラム出張事業 ・ 地域交流事業 ・ 利用団体プログラム指導 ・ 生活体験プログラム提供事業 (3) 人材育成事業 ・ 指導者ワークショップ ・ ボランティア活動支援事業 ・ インターンシップ受入れ事業 (4) 団体支援事業 ① 活動支援事業 ・ 自然体験プログラム提供事業 ・ 合同下見会および個別下見対応事業 ・ 出前授業 ・ 学校利用抽選及び利用日選定 ② 利用促進事業 ・ 学校利用ナビ 2 施設管理運営事業 ・ 青少年山の家管理業務 ・ 青少年山の家貸室事業、物品貸出等	通年 時期未定 2 回程度 1 月 1 回 通年 7 月、2 月 通年 通年 通年 2 回程度 通年 8 回程度 適宜 通年 通年 随時 通年 80 校 4～6 月 通年 12 回程度 通年 通年

札幌市青少年山の家

×
SDGs



事業方針

まちの活力を高める活動の拠点～多様性に富んだ市民との共創

令和4年度は「エルプラザの存在意義の再確認と新たな価値の創造」をモットーに、男女共同参画センター、市民活動サポートセンター、環境プラザ、情報センターが協働し、まちの活力を高める取り組みを行う。具体的には、出会いとつながりの機会を創出し、情報の収集と発信を行うことで活動の拡大と潜在的活動者の再発見につなげていく。また、多様な活動主体と協働することで社会課題の解決を支援するほか、コスト・マネジメントにも注力し管理運営の効率化に努める。

第4期指定管理期間の最終年度として、改めてエルプラザ公共4施設の存在意義をしっかりと捉え、市民の活動支援や可能性を広げる一助となる。また、常にアンテナを張り、北海道や札幌市だけではなく、国や海外の動向も意識し、社会的課題の解決に向けて感度よくスピーディーな対応ができるよう先を見据えた取り組みを行う。

重点目標

等事業
地域活動

次の時代を見据え受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る。

施設運営等事業

男女共同参画センター事業

- ジェンダー平等達成に向けた取り組みを行う。
- 子ども・若者のエンパワメント事業を実施する。
- ワーク・ライフ支援を行う。

市民活動サポートセンター事業

- 次世代活動者の堀り起こしと支援を行う。(人材養成、コーディネート)
- 市民活動団体との協働拡充を図る。

環境プラザ事業

- さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する。
- 情報収集・発信を充実させる。

情報センター事業

- 人と人、人と情報をつなぐ取り組みを行い、コミュニティを形成する。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①利用者総数

令和4年度	456,000人	令和3年度	275,600人
-------	----------	-------	----------

②事業プログラム参加者総数

令和4年度	37,500人	令和3年度	24,870人
-------	---------	-------	---------

③利用者アンケートにおける満足度

令和4年度	施設満足度 86% 接遇満足度 86%	令和3年度	施設満足度 91% 接遇満足度 96%
-------	------------------------	-------	------------------------

【部門目標】

①男女共同参画の啓発の取り組み

令和4年度	40回	令和3年度	63回
-------	-----	-------	-----

②市民活動啓発事業の実施/相談

令和4年度	9回/600件	令和3年度	9回/525件
-------	---------	-------	---------

③環境活動の機会提供

令和4年度	50回	令和3年度	45回
-------	-----	-------	-----

④情報センターSDGsに係る啓発活動につながる取り組み

令和4年度	12回	令和3年度	24回
-------	-----	-------	-----

事業内容	時期・回数
1 市民活動振興事業 (1) 活動支援事業 [男女共同参画センター事業] ・北海道女性起業家支援ネットワーク事業 ・女性の多様な働き方窓口総合受付業務「ここシェルジュ SAPPORO」 ・子ども・若者のためのエンパワメント事業 ・コワーキングスペース事業 ・ジェンダーイシューに関わる事業 ・ワーク・ライフ支援事業 ・子育てや介護の環境整備事業 ・女性のための総合相談 ・男性のためのワーク・ライフ相談 ・若年層のための相談 ・性的マイノリティ電話相談業務 NEW ・調査・研究事業 他 [市民活動サポートセンター事業] ・スタートアップ支援事業 ①スタートアップ支援講座 ②NPO 法人フォローアップ講座 ③次世代層向け市民活動促進サポート ・人材養成事業 ・NPO との出会い創出事業 ・NPO との協働・共創促進事業 ・市民活動相談 ・NPO 専門相談（税務・会計・法律） 他 [環境プラザ事業] ・こどもエコクラブ札幌事務局業務 ・コーディネート業務 ・環境教育リーダー派遣制度 ・環境保全アドバイザー派遣制度 ・環境関連施設との連携事業および環境中間支援会議北海道への参画 ・講座・研修・交流会 他 (2) 職員派遣事業 ・小・中・高校生への学習対応業務 他 NEW ・札幌市外の外部講座及びワークショップの講師派遣 (3) 情報発信事業 ・Web コンテンツ拡充業務 ・情報発信スペースの活用 ・情報コンシェルジュ業務 ・図書管理業務 NEW ・共同・共催事業 NEW ・札幌エルプラザ公共4施設スタディーツアー事業 他	通年 通年 通年 4 回程度 通年／通年 3 回程度 通年 38 回／通年 13 回程度 通年 46 回／通年 2 回程度 通年 30 回／通年 1～3 月 1 回 ①通年 複数 ②通年 3 回 ③7～12 月 複数 通年 複数 通年 複数 通年 7 回 通年 随時／通年 12 回 通年 随時 5～3 月 80 件／40 件 通年 3 回程度 通年 2 回 通年 25 回 通年 随時 通年 随時／通年 通年／通年 通年 適宜 通年 通年 通年 通年 3 回
2 施設管理運営事業 ・エルプラザ公共4施設の管理業務 ・エルプラザ公共4施設の貸室事業、物品貸出 NEW ・エントランススペースの貸出 他	通年 通年 通年 3 回

札幌エルプラザ公共4施設
× SDGs



事業方針

財団内外から必要とされる課へ

これまで多くの事業を実施し培ってきた様々な知識や技術・人脈など多くの財産と、他部門では難しい取り組みを財団内外に還元し、地域社会はもとより他部門にも必要とされる企画事業課を目指すとともに、他課の取り組みを地域社会に広げられるよう、財団内の積極的な情報交換や業務連携を深め、地域社会の発展と財団の知名度向上を図る。また、コロナ禍で変容した現在の社会状況を踏まえ、当財団が大切にしてきた「体験活動」のほか、非接触型プログラムも積極的に取り入れ、新様式に対応した事業展開を目指す。

重点目標

地域活動等事業

- 収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。
- 「体験活動」と「非接触型プログラム」のバランスをとり、事業提案と実施を進める。
- 「あそぼ」等の広報活動の継続と効果的な活用を図る。
- 労働安全衛生法第59条第3項に基づく「特別教育等」の実施を体系化し、財団内で継続的に実施できる方法確立する。

数値目標

【共通目標】*令和3年度数値は見込数を記載

①事業プログラム参加者総数（主催事業）

令和4年度	3,648人	令和3年度	未実施 ※新型コロナの影響により、 全ての主催事業を中止
-------	--------	-------	------------------------------------

②利用者アンケートにおける満足度（主催事業）

令和4年度	93%	令和3年度	未実施 ※新型コロナの影響により、 全ての主催事業を中止
-------	-----	-------	------------------------------------

【部門目標】

①イベント収益総額

令和4年度	6,800万円	令和3年度	4,462万円
-------	---------	-------	---------

②他課連携事業回数

令和4年度	3回	令和3年度	5回
-------	----	-------	----

③財団内「特別教育等」実施回数

令和4年度	4回	令和3年度	3回
-------	----	-------	----

Ⅶ 基金事業

(1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」事業

子どもの健全育成に関する事業や地域活動推進事業等の継続的な活動に対する支援を行い、子どもが健やかに成長していくために地域社会がともに助け合い、支え合う環境の醸成に寄与することを目的に実施する。



【助成事業】

対象分野／子どもの健全育成事業、子どもの地域活動推進事業

事業区分／①滝野自然学園活用型事業→滝野自然学園を会場に事業を実施する団体

②学生チャレンジ事業→学生のみで構成される団体

③一般活動事業→滝野自然学園以外で事業を実施し、学生のための構成ではない市民グループ・サークル等の団体

助成事業実施期間／令和4年4月1日（金）～令和5年2月28日（火）

募集期間／令和3年12月1日（水）～令和4年1月31日（月）〆切

【その他】

さっぽろ・こども情報誌「あそぼ」の発行 等

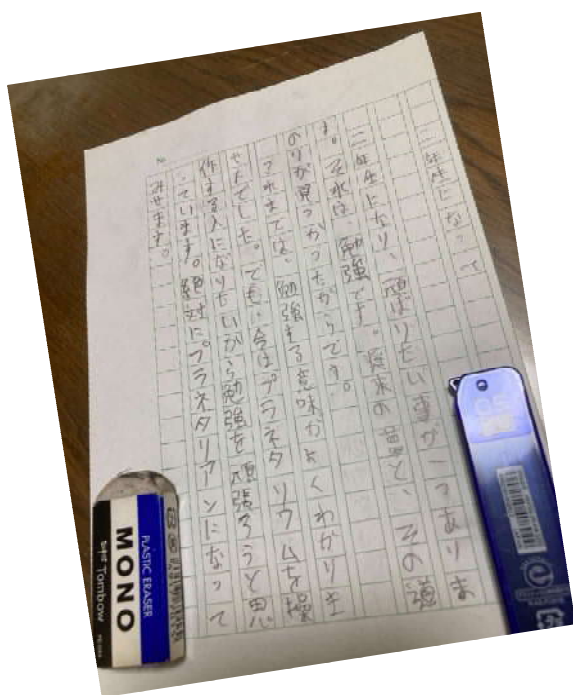


(2) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業

すべての子ども若者が未来へ向けてチャレンジできる社会の構築をめざし、経済的困窮等により困難を抱える子ども若者の教育及び生活の安定に資することにより、社会的自立を支援することを目的に実施する。

事業区分／子ども・若者の居場所「いとこんち」事業

子ども・若者の社会的自立に向けた経済的な支援事業



VIII 施設一覧

(1) 自主運営施設

	施設名	所在地	施設内容
1	滝野自然学園	南区滝野 106 番地	宿泊室、食堂／集会室、学習室、 野外炊事場等

(2) 指定管理施設

	施設名	所在地	施設内容
1	児童会館	札幌市内 109 か所	体育室、プレイルーム等
2	こども人形劇場こぐま座	中央区中島公園 1-1	ホール
3	こどもの劇場やまびこ座	東区北 27 条東 15 丁目	ホール、工作室、研修室、 会議室
4	若者支援総合センター	中央区南 1 条東 2 丁目	活動室等
5	アカシア若者活動センター	東区北 22 条東 1 丁目	活動室、和室、音楽室、 体育室等
6	ポプラ若者活動センター	白石区東札幌 2 条 6 丁目	活動室等
7	豊平若者活動センター	豊平区豊平 8 条 11 丁目	活動室、音楽室、体育室等
8	宮の沢若者活動センター	西区宮の沢 1 条 1 丁目	活動室、音楽スタジオ、 体育室等
9	北方自然教育園	南区白川 1814 番地	展示室、工作室、多目的室
10	定山溪自然の村	南区定山溪	コテージ、テントサイト、 野外炊事棟
11	青少年山の家	南区滝野 247 番地	宿泊室、研修室、多目的ホール、 野外炊事場等
12	男女共同参画センター	北区北 8 条西 3 丁目	研修室、会議室、料理実習室、 託児室、ホール等
13	市民活動サポートセンター	同上	事務ブース、会議コーナー等
14	環境プラザ	同上	環境研修室
15	消費者センター	同上	会議室、食材研究室
16	千歳市青少年会館	千歳市東雲町 1 丁目	体育場、研修室、集会室、和室

(3) 受託施設

	施設名	所在地	施設内容
1	ミニ児童会館	札幌市内 90 か所	小学校内併設
2	千歳市児童館・学童クラブ	児童館 10 か所 学童クラブ 18 か所	遊戯室、学童クラブ専用室等

IX 機構図

